

# 代替医療

## 最新ガイド



大野 智

おの・さとし  
1988年、島根医科大学卒業。同大第2外科などを経て現在は金沢大学大学院補完代替医学特任助教授。専門は腫瘍(しゅよう)免疫学。

補完代替医療にはいろいろな見方があります。この連載では良い面も悪い面も含め、客観的に評価していきたいと考えています。

代替療法の現状を理解してもらうため、手始めにがんの解説してみましよう。がんの治療法は、手術、化学療法、放射線療法、3本柱が中心です。残念ながら、「がん」と診断された方の約半数は数年以内に病状が進行したり、再発したりして亡くなります。そのため、多くのがん患者は、病状の進行を少しでも遅らせるため、和らげたりするため、さまざまな補完代替医療を利用しています。

厚生労働省は、01年から、補完代替医療の利用実態調査に関する研究班(兵頭一之介・班長)を組織し、全国のがん専門病院の患者を対象にアンケート調査をしました。

それによると、がん患者の約45%が1種類もしくはそれ以上の補完代替医療を利用していることが明らかになりました。どういう人たちが利用したかを調べたところ、60歳以下の人▽女性▽大学卒業以上の学歴▽ホスピスや緩和ケアの受診患者などに利用率が高いことが判明しました。

どういふものを利用したかの質問(複数回答)では、その是非はともかく、健康食品(キノコ類、プロポリス、漢方、キトサン、サメ軟骨など)が約96%で最も多く、次いで

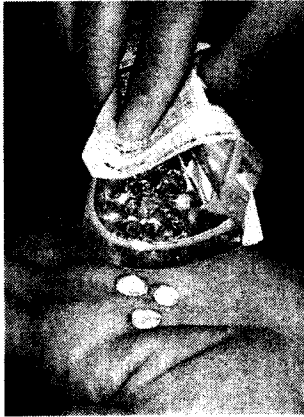
気功(3・8%)、灸(3・7%)、はり(3・6%)となりました。

このように、我が国では、キノコ類をはじめとする健康食品の利用率が飛び抜けて高いことが特徴的といえます。なぜ、多くのがん患者は代替医療を利用するのでしょうか。アンケート調査(複数回答)によると、その目的として、「がんの進行抑制」(67%)、「治癒」(45%)、「症状の緩和」(27%)、「通常医療の補完」(21%)となっていました。

始めたきっかけは、「家族や友人からの勧め」が約80%と高いことが分かりました。そのせいか「利用している代替医療に関する十分な情報を得ていなかった」と回答した人が約60%もいました。

さらに、「利用に際しては医師などに相談したか」との質問に対して、約60%の人は「相談しなかった」と回答しています。逆に、「医師などから質問されたか」との質問に対して、約85%の人は「質問されなかった」と答えています。

このように、がんの医療現場では多くの患者が医療の専門家に相談することなく、黙っていろいろな健康食品などを利用して現状が浮き彫りになりました。これは好ましいことではありません。次回から、どんなことに気をつければよいかをお話しします。



サプリメントが人気だが、医師に相談なく利用されているケースが多い